

「デマ情報」学生が監視

学園大など九州5大学連携



デマ情報を監視する必要性などを共有した
サイバー防犯ボランティアの学生ら

＝11日、県警本部

県内の学生によるサイバー防犯ボランティアが11日、九州7県警の担当者を前に、熊本地震で広がった「ライオンが脱走した」と

いったネット上のデマ情報について発表した。監視態勢の重要性を確認し熊本、福岡、佐賀の計5大学でボランティアが情報交換するネットワークを結んだ。

学生は熊本学園大と崇城大、東海大、福岡大、佐賀大から参加。

学園大が震災で飛び交ったデマ情報を報告。崇城大情報学部2年の菊川稀玲さん(19)は同級生らと開発した、短文投稿サイト「ツイッター」上の危険な内容を監視するアプリケーションを紹介した。ネットワークを結んだ3県の学生は今後、無料通信アプリLINE文投稿サイト「ツイッター」上の危険な内容を監視するアプリケーションを紹介した。ユリティ推進協議会が主催し、県警本部で開いた。(松浦裕子)